

津和野町埋蔵文化財報告書

島根県鹿足郡津和野町

# 平成 4 年度町内遺跡 分布調査概要報告書

～藩校養老館跡・木薙遺跡・観音平遺跡・高崎龜井家屋敷跡～

1993

津和野町教育委員会

平成4年度町内遺跡分布調査概要報告書正誤表

下記のとおり誤りがございますので、お手数ですが訂正をお願いいたします。

ページ	箇 所	誤	正
3	14	攪乱させて	攪乱されて

島根県鹿足郡津和野町  
**平成 4 年度町内遺跡  
分布調査概要報告書**  
～藩校養老館跡・木薙遺跡・観音平遺跡・高崎亀井家屋敷跡～

1993

津和野町教育委員会

## 例　　言

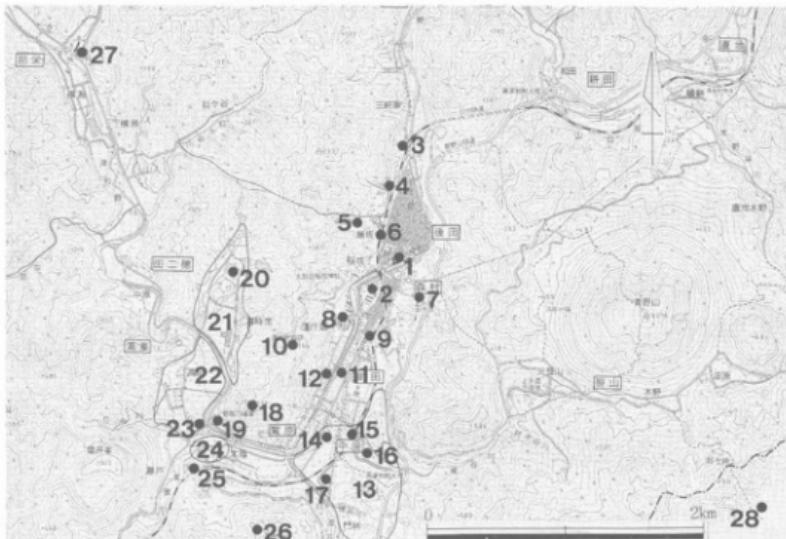
1. 本書は、島根県鹿足郡津和野町町内に所在する藩校養老館跡、木薙遺跡、観音平遺跡、高崎亀井家屋敷跡の各遺跡について、平成4年度に津和野町教育委員会が実施した埋蔵文化財分布調査の報告書である。
2. 調査にあたっては、下記の方々にご指導いただいた。

山口大学人文学部助教授	中　村　友　博　氏
広島県立美術館学芸員	村　上　勇　氏
島根県教育委員会文化課	熱　田　貴　保　氏
津和野町文化財保護審議会会长	鈴　川　兼　光　氏
3. 本書に用いた方位は、第12図においては磁北を示し、その他の図においては真北を示す。
4. 調査によって作成された記録類及び出土遺物は、津和野町教育委員会に保管されている。

# I. 津和野藩校養老館跡

## 1. はじめに

養老館は、天明六年（1786年）8代藩主亀井矩賢によって創設された津和野藩の藩校です。当初は、現在の津和野小学校付近（第1図2）に校舎を構えていましたが、嘉永六年（1853年）の大火で焼失し、安政二年（1855年）に現在の殿町の位置（第1図1）に再建されました。森鷗外や西周など日本の近代化に貢献した多くの俊才を輩出した記念碑として、昭和44年に島根県の史跡に指定され、今日まで剣術教場、槍術教場、書物蔵（第



第1図 藩校養老館周辺遺跡分布図

1. 藩校養老館跡 2. 元藩校養老館跡 3. 宝篋印塔（伝吉見頼行墓）
4. 宝篋印塔（伝吉見正頼夫人墓） 5. 永明寺 6. 山根遺跡
7. 丸山遺跡 8. 津和野藩邸跡 9. 森遺跡 10. 津和野城跡
11. 森鷗外旧宅 12. 西周旧居 13. 中座遺跡群 14. 西中組遺跡
15. 高崎亀井家屋敷跡 16. 観音平遺跡 17. 山崎遺跡 18. 中荒城跡
19. 鶯原八幡宮 20. 要害山砦跡 21. 喜時雨遺跡 22. 高田遺跡
23. 宝篋印塔（伝吉見民部墓） 24. 大蔭遺跡 25. 茶臼山城跡
26. 陶晴賢本陣跡 27. 横瀬遺跡 28. 唐人焼窯跡

2図)が大切に保存されてきました。

平成元年度に津和野川がふるさとの川モデル事業に認定され、養老館の旧敷地が一部事業計画に係ることとなり、津和野町教育委員会では、平成4年度に試掘調査を実施し、遺跡保護のための資料を得ることとなりました。藩校施設後は今日にいたるまで、中学校など敷地内に様々な施設が建設され、建物遺存部分以外は大幅な地下の搅乱が予測されました。今回の調査箇所は練兵場部分にあたり、養老館をめぐる土壠の痕跡を確認することに主眼が置かれました。



藩校養老館



調査地現況



第2図 養老館分布調査テストピット配置図

## 2. 調査の経過

今回の調査は、7月に実施しました。調査地は、島根県鹿足郡津和野町大字後田に所在します。現在は川沿いの道となっており、これに並行させて、 $5\text{ m} \times 2\text{ m}$  のテストピットを3カ所設定し（第2図）、東から順にTP1、2、3と呼称し、TP1から調査に着手しました。

掘り下げは、まず重機により表土を除去し、土層断面を観察しながら必要に応じて手掘りに切り替えました。いずれのテストピットも地下を大幅に搅乱させており、現存する養老館の建物の基盤の高さから約1m掘り下げましたが、遺構は全く遺存していませんでした。遺物は搅乱層中に混入しており、層位ごとに取り上げました。各テストピットとも適宜写真撮影、実測を行ない、調査後は重機により、埋め戻しを実施しました。



重機による掘り下げ



手掘りによる掘り下げ



土層断面の実測



測量用絶対高の移動

### 3. 調査の概要

3カ所のテストピットを調査した結果、地下はいずれも大幅な搅乱を受けており、養老館開設当時の基盤面は、削平されていることがわかりました。コンクリート塊が混入し、TP 2では、建物のコンクリートの基礎部分が検出されました。遺物は各搅乱層中に混入し、近代以降の陶磁器片が主でしたが、幕末頃と思われる石州瓦の破片も若干出土しました。

養老館の土壌の痕跡を確認する調査でしたが、当時の様子を留める遺構の検出はありませんでした。



TP 1 堀り下げ状況



TP 2 堀り下げ状況



第3図 TP 3 土層断面実測図

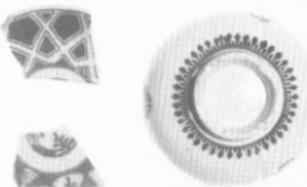
#### 4.まとめ

今回の調査では、養老館に関する遺構は検出されませんでした。また、養老館以前にここに存在した藩の家老布施田家の屋敷に係わる遺構も確認できませんでした。

下に掲載した絵図は、幕末頃の津和野の城下を描いたもので、当時の養老館の様子が窺われます。これによると、養老館の敷地は、現在のカトリック教会の方まで広がっており、今回の調査地付近は練兵場で、土堀がめぐっていたことがわかります。



練兵場の現況(白壁の建物が書物蔵)



出土した遺物(白上焼の碗)

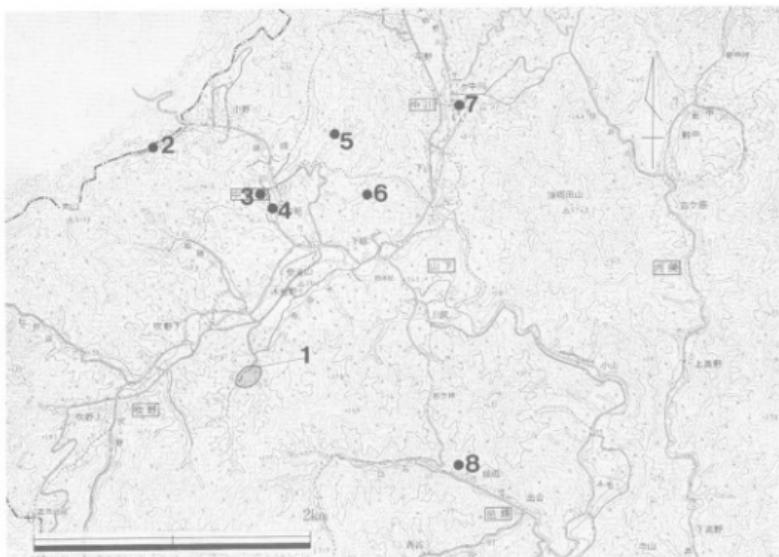


養老館の絵図(栗本格斎筆「津和野城下絵図」より)

## II. 木 蘭 遺 跡

### 1. はじめに

木蘭遺跡は、弘安五年（1282年）吉見頼行津和野入部の地として今日まで伝えられている、津和野町大字中曾野字木曾野の地に所在します（第4図1）。元寇にそなえての石見の海岸防衛を鎌倉幕府によって命じられ、能登国から当地に下向したと伝わっています。木曾野の地は、山間の狭小な谷に位置し、古くは木蘭と記され、よって遺跡の名称となりました。御所屋敷という字名を残す水田（第5図A）に、吉見氏の居館跡が推定され



第4図 木蘭遺跡周辺遺跡分布図

- 1. 木蘭遺跡
- 2. 鍛治原古墳群
- 3. 丸山遺跡
- 4. 有福寺遺跡
- 5. 人形溢遺跡
- 6. 徳永城跡
- 7. 木部中学校校庭遺跡
- 8. 堀家宝篋印塔

ており、その周辺にも幾つかの吉見氏ゆかりの旧跡が存在し、これらは総じて昭和54年に津和野町の史跡に指定されました。吉見氏の氏神である木薙神社（第5図B）や吉見氏の墓と伝わる宝篋印塔（第5図E）、吉見氏の菩提寺源流寺の跡（第5図F）など、木薙の谷は往時を偲ばせる環境にあります。

平成2年度に木曾野川流域には場整備と河川改修の事業計画が策定され、これを受けて津和野町教育委員会では、平成4年度に試掘調査を実施し、遺跡保護のための資料を得ることとなりました。木曾野川の狭小な氾濫源に、遺跡がどの程度遺存しているかが焦点となりました。



木薙遺跡調査地遠景



第5図 木薙遺跡分布調査テストピット配置図

## 2. 調査の経過

この調査は、11月に実施しました。調査地は、津和野川の支流木曾野川によって形成された谷に所在し、御所屋敷の字を持つ水田の周辺にTP1、2の2カ所を、源流寺跡と伝わる谷の正面の水田にTP3を設定しました。3カ所とも、すべて手掘りで掘り下げ、表土を粗掘りしたのち、層位ごとに精査しながら掘り下げました。調査地が氾濫源に立地するため湧水が甚だしく、エンジンポンプによって排水しながらの調査となりました。層位ごとに適宜記録をとり、各テストピットとも土層断面の写真撮影、実測を行ない、遺物は層位ごとに取り上げました。完掘状況の写真を撮影したのは、埋め戻しを行なっていませんでした。



表土除去作業



掘り下げ作業



埋め戻し作業



排水作業

### 3. 調査の概要

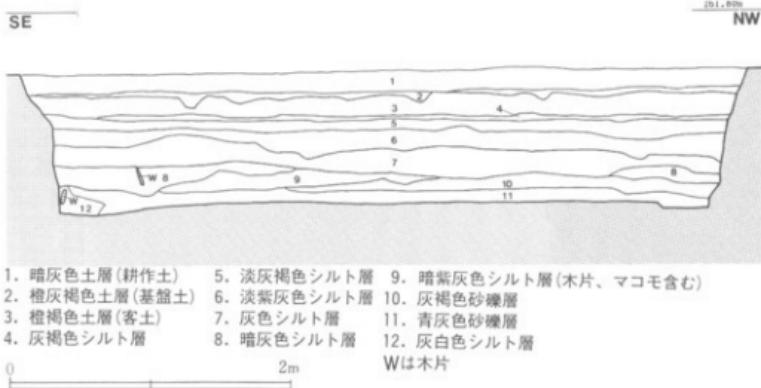
3カ所のテストピットを調査した結果、地下はいずれも氾濫による流出を被っており、シルト層や砂礫層の堆積が観察されました。遺構は検出されず、遺物は氾濫堆積による流入と思われましたが、土師質土器の鍋（第7図）の破片など、微量ながら遺物は中世の時期を主体とするものでした。多量の流木が検出されましたが、加工木はみられませんでした。



TP 1 掘り下げ状況



TP 3 掘り下げ状況



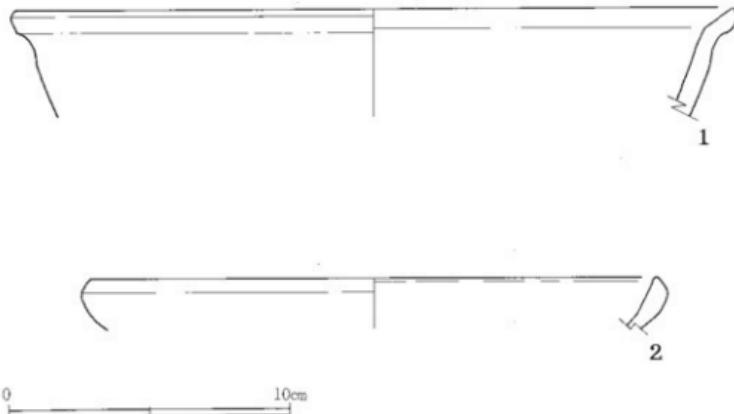
第6図 TP 2 土層断面実測図

#### 4.まとめ

今回の調査では、中世期の人跡を示す遺物の出土をみましたが、遺構が確認されず、吉見氏の居館跡の存在を積極的に示す痕跡は、確認されませんでした。吉見氏の津和野入部が、まず木曾野の地に本拠を置くことに始まったことを伝える文書として、慶長二年(1597年)に著わされたとされる岡家所蔵の「隆信覚書」写があります。以下にその抜粋を掲載します。

『先祖三河守頼行朝臣、能登国より御入国之砌は……美濃郡白上村ニ而九十余日御逗留有之、木部郡吉賀郡へ御勘有之、諸群之荒地御切開有之弘安五壬午年十二月始而木曾野村ニ仮屋形を建、功田三百町之守護職として石見一国之惣追捕の勅定を蒙り給エリ。弘安六年正月より御城山本城繩張有之、其後永仁二年甲午迄十三ヶ年之間、木曾野村ニ御在館、其間年々諸方江御勘也、……木曾野村古源流寺台御塔は頼行公とも御北方とも申、御塔式台五重五輪無銘、興源寺引移之時御廟堂同引移有之候由……頼直、木曾野御館より御引移は嘉暦二年也、御入城之後も木曾野之御旧館其併被建置者也、源流寺住持投舟和尚、寺塔興源寺と改名……』

木蘭遺跡では、今回の調査以前に右頁に掲載した土器が表採されています。白磁の年代が、吉見氏入部よりはるかに遡ることより、木曾野にまつわる伝承の正確さはともかく、この地が古くから開発されていた事を示しています。



第7図 TP 2 出土遺物実測図



字御所屋敷付近



木菌神社



鞍柳の石碑



吉見の池



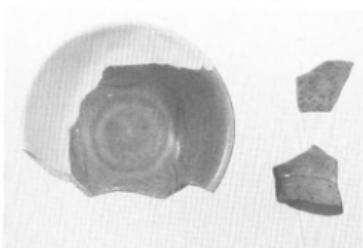
伝吉見氏墓（宝篋印塔1）



伝吉見氏墓（宝篋印塔2）



源流寺跡



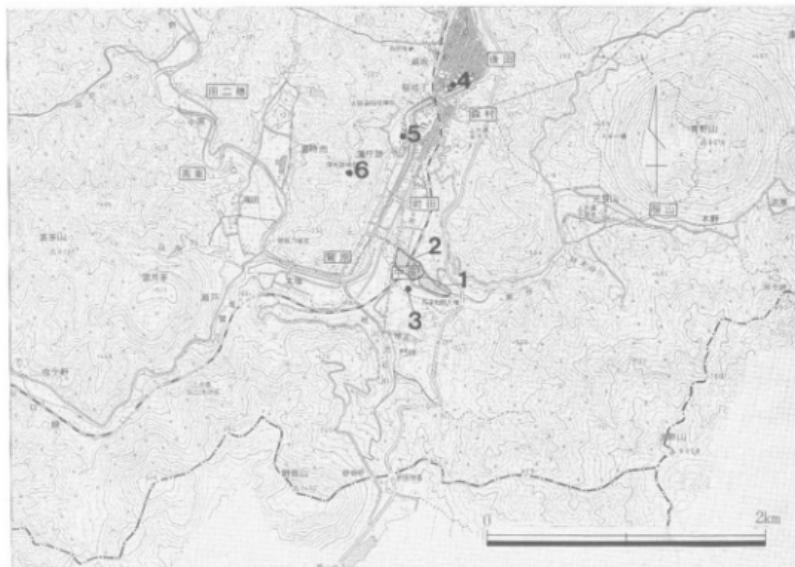
木菌遺跡採集遺物

（青磁碗、白磁片、土師器片）

### III. 観音平遺跡・高崎亀井家屋敷跡

#### 1. はじめに

観音平遺跡は、津和野有数の遺跡密集地である中座遺跡群中の一つで、以前から石鎚などの遺物の散布地として知られていました。独立支丘である丸山を挟んで隣接するのが津和野藩亀井家の分家、高崎亀井家の屋敷跡です。高崎亀井家は、3代藩主亀井茲親によって、藩主に後継のない場合藩主格となる家柄として定められた一族です。享保六年（1721年）に屋敷が構えられ、明治元年（1868年）に邸宅が焼失し、その後再建されること



第8図 観音平遺跡・高崎亀井家屋敷跡位置図

1. 観音平遺跡 2. 高崎亀井家屋敷跡 3. 衣美須社  
4. 藩校養老館跡 5. 津和野藩邸跡 6. 津和野城跡

なく、田地として今日にいたっています。両遺跡とも、津和野川の支流、南谷川の谷筋沿いに発達した、参勤交代の重要路である吉賀街道沿いに位置します。

この地域には場整備事業計画が策定され、これを受けて津和野町教育委員会では、試掘調査を実施することとなりました。



九 山



第9図 駅音平遺跡・高崎龜井家屋敷跡分布調査テストビット配置図

## 2. 調査の経過

調査は、1月から開始しました。調査地は、丸山を挟んで2遺跡に分けられ、南東部の觀音平遺跡にあたる棚田地帯にT P 1～10を、北西部の高崎亀井家屋敷跡にあたる田地にT P 11～14を設定しました。すべて手掘りで掘り下げ、表土を粗掘りしたのち、層位ごとに精査しながら掘り下げました。層位が変化することに適宜記録をとり、各テストピットとも土層断面の写真撮影、実測を行ない、遺物は層位ごとに取り上げました。完掘状況の写真を撮影したのは、埋め戻しを行なっていませんでした。T P 13、14については、建物部分にあたることが予測されたため、試掘面積を広くとり、建物の方向、規模の把握に努めました。取り上げた遺物については、水洗、注記、接合を実施しました。

冬季の調査となり、積雪等で難渋を極めましたが、平成5年3月にすべての作業を終了しました。



掘り下げ作業



掘り下げ作業



土層断面の実測

### 3. 調査の概要

観音平遺跡にあたる部分については、 $5\text{m} \times 2\text{m}$ のテストピットを10ヶ所設定しました。TP 1～3付近では火山灰土の流出土層と思われる茶灰褐色土の堆積が認められ、中世の土師質土器の鍋の破片が、混入状態で出土しました。遺構は検出されませんでした。その下層には砂礫層が形成されており、遺構、遺物は検出されませんでした。

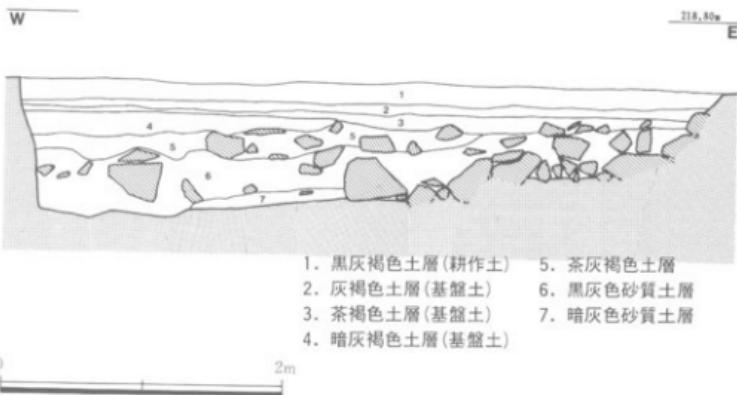
TP 4～9では、粘質の強い土層の堆積が顕著にみられ、この層から遺構、遺物は検出されず、全体に流出を被っている様子が窺われました。その下層は砂礫層で、遺構、遺物は検出されませんでした。



TP 1 挖り下げ状況



TP 5 挖り下げ状況



第10図 TP 2 土層断面実測図

TP 10は、観音平遺跡の西端にあたり、高崎亀井家屋敷跡の範囲外ながら隣接する地点に位置します。このテストピットでは、火山灰土と思われる黒色土の堆積層が確認され、弥生時代後期の甕の破片が混入していました。その下層は砂礫層で、遺構、遺物は検出されませんでした。

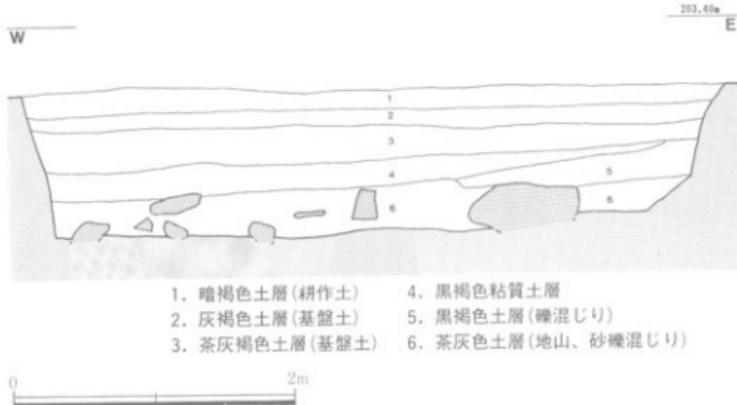
高崎亀井家屋敷跡には、4カ所のテストピットを設定しました。TP 11、12は、それぞれ10m×2m、9m×2mのテストピットで、耕作土下は砂礫層の地山となり、若干上層を削平して整地しているものと思われます。TP 12で柱穴状のピットを1基検出した他は、遺物の出土はみられませんでした。



TP 9 挖り下げ状況



TP 11 挖り下げ状況



第11図 TP 7 土層断面実測図

TP 13、14では、ほぼ南北方向に軸を持つ建物の痕跡を検出しました。TP 13は、24.6m×4mのトレンチの両端から東側に各々10.5m×2m、5.6m×2.8mの拡張部が延長されたテストピットで、建物の基壇と思われる石列遺構を2棟分（A、B）検出しました。AとBの間には、井戸（SE 1）を検出し、72cm×56cm、深さ94cmを測りました。北側延長部からは、整地層と思われる多量の礫群が検出され、南側延長部分からは炭化物を埋土に混入した土坑（SK 1）を検出しました。テストピットのほぼ全域から多量の瓦片が出土し、特に建物推定部分には集中していました。遺物は、陶磁器、鉄製や銅製の金具類が出土し、特にSK 1付近からは完形に近い陶磁器が集中的に出土しました。TP 14は、6m×5mのテストピットで、東西方向の3条の溝状遺構（SD 1～3）を検出しました。



TP 13石列検出状況（南から）



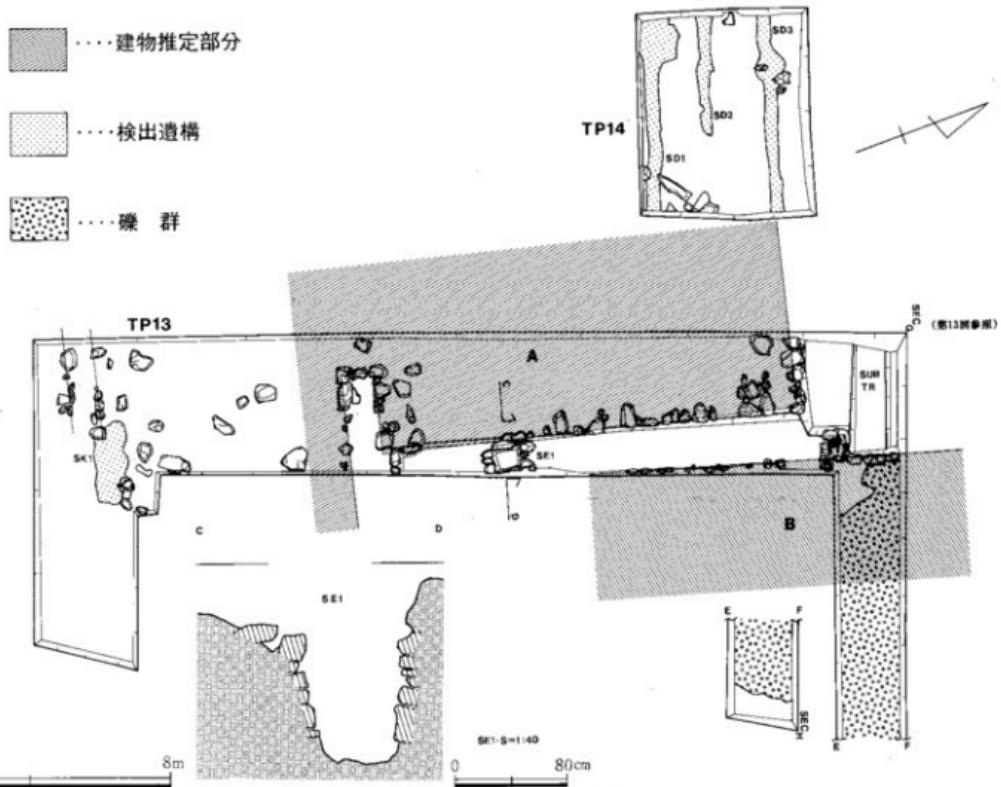
TP 13石列検出状況（北から）



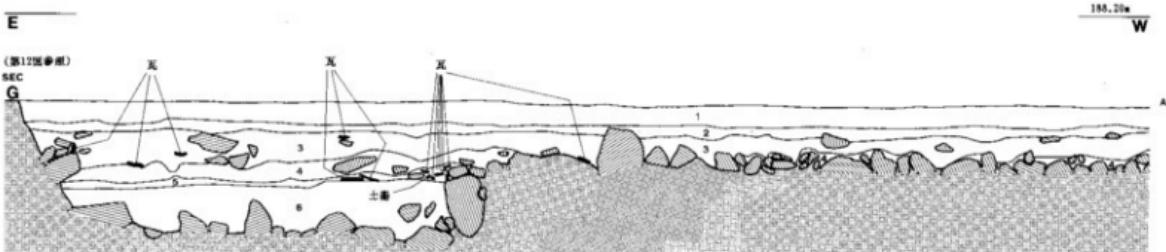
TP 14溝状遺構検出状況(東から)



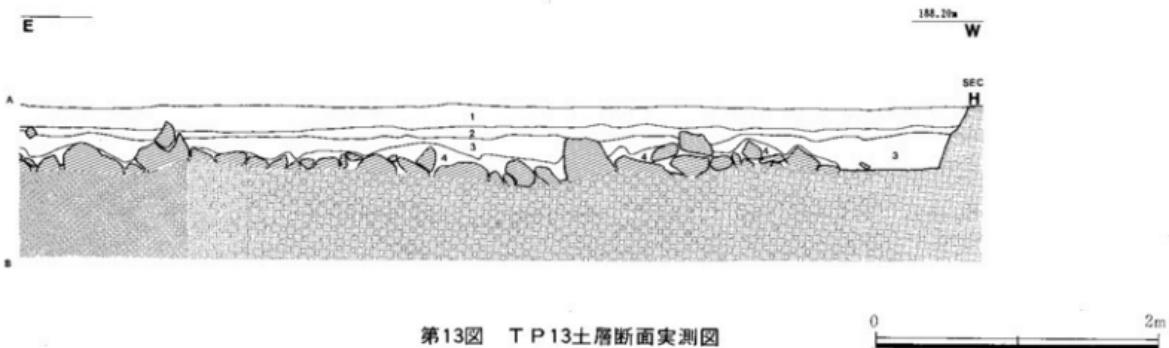
TP 13井戸検出状況（西から）



第12図 TP13・14検出状況実測図



1. 暗灰褐色土層(耕作土)  
2. 茶灰色土層(基盤土)  
3. 暗茶灰褐色土層(礫、マンガン分含む)  
4. 茶褐色土層(瓦片を多く含む)  
5. 暗茶褐色土層(瓦片、炭化物を多く含む)  
6. 明茶灰色砂質土層



第13図 TP 13土層断面実測図

#### 4.まとめ

第9図に示したとおり、調査地の周辺には高崎亀井家屋敷の痕跡として石垣や庭園跡が遺存しており、特に中座会館を挟むように位置する石垣は、他所と比較して大振りの石材が用いられており、字名が「本門前」と伝えるように、ここに屋敷の本門が置かれていたようです。丸山山麓の庭園遺存部分には、築山や園池、流水の施設が残り、本来は丸山全体を含めた一大庭園が展開していたものと思われます。庭園の裏側の石垣は櫓門の名残と思われ、右頁絵図の「黒門」にあたるものと考えられます。また、調査地から南へ約100m、南谷川を渡った反対側の地点（第8図3）に「衣美須社」があり、その境内に、溝で繋がれた丸や四角の孔が彫り込まれている石が置かれています。詳細は不明ですが、その近辺から出土したものといい、あるいは、高崎亀井家屋敷の庭園に置かれていたものである可能性も考えられます。いずれにせよ、高崎亀井家屋敷の規模が、並々ならぬ物であることが窺われました。



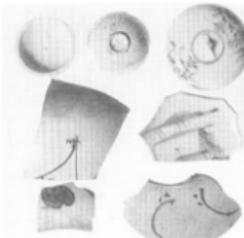
遺存する庭園の痕跡



黒門



掘り込みのある石(衣美須社在)



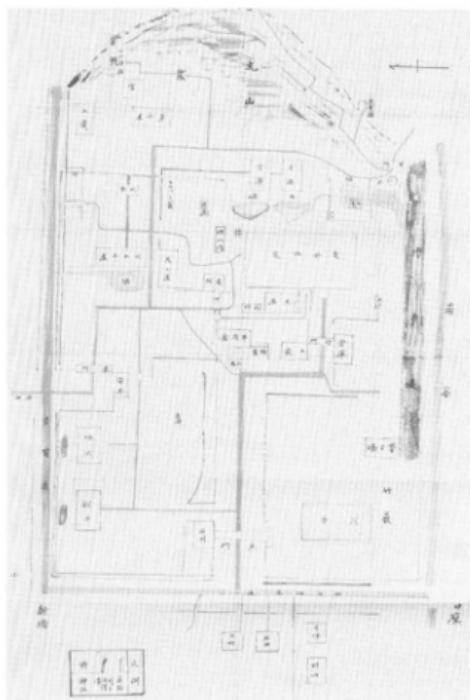
TP 13出土陶磁器



TP 13出土瓦



高崎亀井家屋敷の絵図  
(黒線内が屋敷・栗本格斎筆「津和野城下絵図」より)



高崎亀井家屋敷の絵図

津和野町埋蔵文化財報告書

平成4年度町内遺跡分布調査概要報告書

～藩校養老館跡・木蔭遺跡・觀音平遺跡・高崎龜井家屋敷跡～

平成5年3月 印刷、発行

編集・発行 津和野町教育委員会

印刷所 津和野町（有）坂田印刷

